

平成 27 年 3 月

医療機関の長 様

岩手医科大学

災害時地域医療支援教育センター長 遠藤 重厚

(公印省略)

岩手県委託事業「東日本大震災医療救護診療録分析報告業務」
報告書の送付について

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素よりご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当センターでは岩手県からの委託を受け、東日本大震災津波時の本県沿岸被災地における医療救護活動の診療情報を分析し、今後の災害医療対策の方向性を検討することを目的とした「東日本大震災医療救護活動診療分析報告」を刊行いたしました。

つきましては、本報告書を医療救護チーム派遣等によりご支援をいただいた貴機関へお送りいたしますので、ご高覧の上、ご活用いただければ幸甚に存じます。

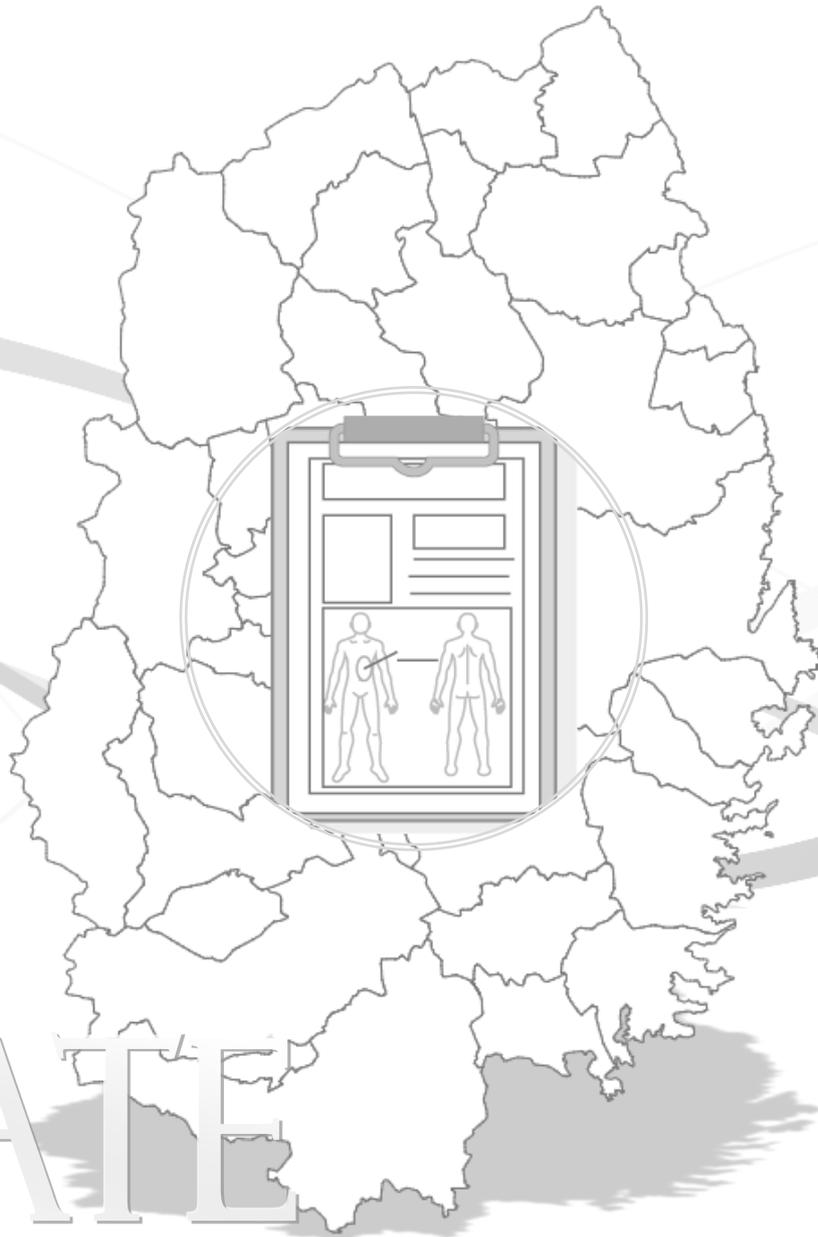
謹白

記

東日本大震災医療救護活動診療分析報告書 1部

岩手県委託事業
東日本大震災医療救護診療録分析報告業務

東日本大震災 医療救護活動診療分析報告書



岩手医科大学 災害時地域医療支援教育センター
岩手医科大学 医学部 災害医学講座

報告書の概要

岩手医科大学災害医学講座

眞瀬 智彦

— はじめに —

東日本大震災が発災して4年が経過した。被災地の医療の復興はまだ道半ばである。岩手医科大学は平成23年9月災害医学講座を開講、平成25年4月その拠点となる災害時地域医療支援教育センターを竣工した。これらの役割のひとつに、東日本大震災の医療活動の総括がある。本報告書「東日本大震災 医療救護活動診療分析報告書」は東日本大震災発災直後からの沿岸被災地の救護所活動で使用した診療録（カルテ）をまとめたものである。同じ災害は2度起きないと言うが、今後起こるであろう南海トラフ地震、首都直下型地震の医療活動の参考になればと思う。

《分析対象データについて》

東日本大震災発災後の3月11日から7月29日まで岩手県沿岸の久慈市・野田村、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市の7市町に開設された救護所188ヶ所で使われた診療録計80,578枚をまとめたものである。（表1）

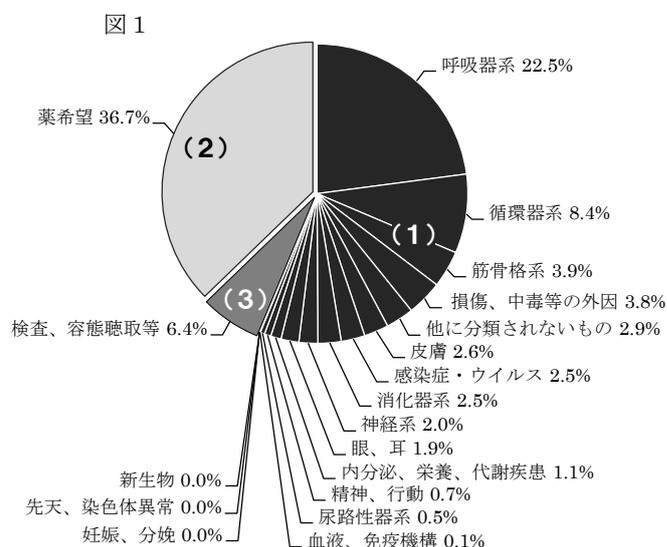
表1

地区	救護所 施設数	受診者数(人)		受診件数(カルテ枚数)			処方薬数		
		合計	地区別 割合	合計	地区別 割合	一人当たり 受診回数	合計	地区別 割合	一人当たり 処方薬数
1 久慈市	10	356	1.1%	447	0.6%	1.3回	733	0.4%	2.1ヶ
2 宮古市	19	1,157	3.6%	4,970	6.2%	4.3回	4,289	2.4%	3.7ヶ
3 山田町	32	7,535	23.5%	18,174	22.6%	2.4回	43,852	24.4%	5.8ヶ
4 大槌町	40	6,914	21.6%	17,460	21.7%	2.5回	44,280	24.6%	6.4ヶ
5 釜石市	11	4,088	12.7%	8,838	11.0%	2.2回	18,934	10.5%	4.6ヶ
6 大船渡市	28	3,353	10.5%	8,459	10.5%	2.5回	15,081	8.4%	4.5ヶ
7 陸前高田市	48	8,679	27.1%	22,230	27.6%	2.6回	52,906	29.4%	6.1ヶ
総計	188	32,082	100.0%	80,578	100.0%	2.5回	180,075	100.0%	5.6ヶ

1、救護所を受診した理由で大きく3つに分類した

- (1) 主訴があり救護所を受診、
- (2) 発災以前から内服していた薬剤がないため、その薬剤の処方を希望し受診、
- (3) 避難所を巡回した医療班により健康調査が行われた際に使用した診療録。

- (1) の診療録が 44,578 枚 (55.3%)、
- (2) の診療録が 29,560 枚 (36.7%)、
- (3) の診療録が 5,144 枚 (6.4%) であつた。(図1)



(1) 主訴があり救護所を受診について

- ・受診者の年齢構成では～9歳、10歳台と60歳、70歳台の二峰性のピークを認めた。
- ・受診理由を分類すると、①呼吸器系、②循環器系、③筋骨格系、④損傷・中毒、⑤皮膚であった。
- ・診断名は、①急性上気道感染症、②高血圧、③急性鼻咽頭炎、④アレルギー性鼻炎、⑤下痢・胃腸炎、⑥睡眠障害、⑦急性咽頭炎、⑧気管支炎、⑨喘息、⑩便秘の順に多かった。
- ・受診のピークは発災後2～3週であり、その後徐々に減少した。

(2) 発災以前から内服していた薬剤がないため、その薬剤の処方希望を受診

- ・多くは慢性疾患で発災以前より服用していた薬剤を持参せず避難したため、薬剤を希望しての受診であった。
- ・その処方された薬剤は、①循環器系(30.3%)、②炎症・免疫・アレルギー系(13.8%)、③消化器系(13.4%)、④神経系(11.3%)、⑤代謝系(9.5%)であった。特に小児では、①炎症・免疫・アレルギー系、②呼吸器系が多かった。

(3) 避難所の健康調査を実施した際の診療録

- ・傷病者が主訴を持ち救護所を受診したのではなく、医療班が避難所を巡回診療した際に記載した診療録である。
- ・この診療録の割合が多い地域は宮古地区であった。
- ・診療録の内容は、健康調査の問診、血圧測定が多かった。

2、地区別の集計

- ・7つの地域別に集計したが、受診理由、疾病構造等に地域差はみとめられなかった。
- ・救護所を開設していた期間・診療録の数は、地域の被災状況が大きい地域が長く・診療録の枚数が多かった。
- ・宮古地区は避難所巡回診察の診療録の割合が多かった。

— 最後に —

東日本大震災の避難所で記載された診療録を集計した。東日本大震災の特徴は冬～春に発災し、地方型の津波災害の疾病構造と言える。このことを考慮して、今後の大規模災害への備え、医療班が持参すべき医薬品、資機材等を考える上での参考としていただけたらと思う。

この報告書をまとめるにあたりご協力、ご指導いただいた、岩手県保健福祉部医療政策室、岩手県医師会の方々に感謝いたします。

目次

◆ 東日本大震災医療救護診療録分析集計表	p 1
全地区 総計 ◆総括表	p 2
 受診者数	
① 受診者数・受診回数 [平均] /年代別/性別	p 3
 受診件数(カルテ枚数)	
② 受診件数(カルテ枚数)/性別/期間別	p 4
③ 受診件数(カルテ枚数)/年代別/期間別	p 4
④ 受診件数(カルテ枚数)/疾病分類別/期間別	p 5
⑤ 受診件数(カルテ枚数)/疾病分類別/年代別・性別	p 6
グラフ：疾病分類別/期間推移・年代別構成比	p 7
グラフ：年代別/疾病分類別構成比	p 12
⑥ 受診件数(カルテ枚数)/病名別	p 14
⑦ 受診件数(カルテ枚数)/病名別 ※多い順	p 17
⑧ 受診件数(カルテ枚数)/疾病分類『Z：検査、容態聴取等』内訳	p 18
◆ 地区別比較表 性別/年代別/期間別	p 19
◆ 地区別比較表 疾病分類別	p 20
 処方薬数	
⑨ 処方薬数/薬分類別/期間別	p 21
⑩ 処方薬数/薬分類別/年代別・性別	p 22
グラフ：薬分類別/期間推移・年代別構成比	p 23
グラフ：年代別/薬分類別構成比	p 27
⑪ 処方薬数/薬大分類別	p 29
◆ 地区別比較表 性別/年代別/期間別	p 30
◆ 地区別比較表 薬分類別	p 31
 【薬希望】処方薬数 (※ 受診理由「薬希望」に処方した薬剤数)	
⑫ 【薬希望】処方薬数/薬分類別/期間別	p 32
⑬ 【薬希望】処方薬数/薬分類別/年代別・性別	p 33
グラフ：薬分類別/期間推移・年代別構成比	p 34
グラフ：年代別/薬分類別構成比	p 38
⑭ 【薬希望】処方薬数/薬大分類別	p 40
◆ 地区別比較表 性別/年代別/期間別	p 41
◆ 地区別比較表 薬分類別	p 42
1 久慈市 地区	p 43
2 宮古市 地区	p 56
3 山田町 地区	p 69
4 大槌町 地区	p 83
5 釜石市 地区	p 97
6 大船渡市 地区	p 111
7 陸前高田市 地区	p 125
◆ 医療救護班の活動状況	p 139
【 国 立 病 院 機 構 】 岩手県で活動した各都道府県医療救護チーム一覧表	p 140
【 日 赤 】 岩手県で活動した各都道府県医療救護チーム一覧表	p 141
【 医 師 会 J M A T 】 岩手県で活動した各都道府県医療救護チーム一覧表	p 142
【 県 管 理 】 岩手県で活動した各都道府県医療救護チーム一覧表	p 146